

令和6年度岡山県農林水産総合センター畜産研究所試験研究課題評価結果票

<事前評価>

総合評価凡例 5：優先的に実施することが適当 4：実施することが適当
 3：計画等を改善して実施することが適当 2：実施の必要性が低い
 1：計画等を見直して再評価を受けることが必要

番号	6-事前-1						
課題名	県内未利用資源を有効活用した堆肥化处理技術の検討						
課題の概要	<p>近年、木質バイオマス発電等の需要拡大や住宅建築等の減少に伴い、オガクズの供給量が減少している。水分調整用の堆肥化副資材であるオガクズが不足することで、堆肥の品質低下や悪臭発生等の畜産環境問題悪化を招くことが想定される。</p> <p>そこで、本事業ではまず、オガクズ不足が引き起こす堆肥化への影響を調査しつつ、畜産農家等で利用されている堆肥化副資材や発酵促進剤の種類及びその効果を明らかにする。</p> <p>その後、県内で入手可能な未利用資源を探索するとともに、オガクズの代替副資材として活用可能かどうか、また、不足しているオガクズを補うため、増量材として、各種堆肥化副資材や発酵促進剤を活用可能かどうか検討する。</p> <p>当該研究を進め、成果を得ることにより、堆肥の品質低下及び環境問題が抑制され、堆肥の利用が増え、資源循環型農業の推進が期待される。</p>						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	必要性	1人	5人	0人	0人	0人	4.2
	有効性	0人	2人	4人	0人	0人	3.3
	効率性・妥当性	0人	5人	1人	0人	0人	3.8
	総合評価	0人	6人	0人	0人	0人	4.0
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・オガクズ不足は、平成20年代後半から言われていたため、もっと早くから取り組んでもよかったのではないかな。 ・堆肥化には、30日～90日くらいの日数がかかると仮定しても、年間4サイクルくらいの試験ができるため、3年の期間をかけなくても、もっと早くに成果を出せないかな。 ・未利用資源の研究という点では良いが、もみ殻や竹を利用するのであれば、粉砕の必要があり、コストアップになるのではないかな。 ・おが粉代替資材の試験研究は、数多く報告されており、新規性に問題があると言わざるをえない。 ・定期定量を畜産農家に提供できるか、価格面に問題がないかを考慮した上で、試験設定を行っていただきたい。 ・竹林等から副資材を得て利用する場合、管理・伐採等のコスト面の課題があるが、研究後の普及策として、県・市町村等全体で関係者をマッチングさせる取り組みをし、解決することを期待する。 ・バイオマス残渣について、その知見が少ないことから、ぜひ対象資材に加えていただきたい。 ・「県内で利用が進んでいない資源」の利用研究であることに、有意性があると評価できる。 ・県内未利用資源について、どれだけ確保できるのか、その期待量を示していただきたい。 ・県内未利用資源の活用は、耕畜連携の面から評価できる。 						

注意事項

- ① 各評価委員の評価内容を基に、重複する評価内容を取りまとめて記載する等、簡潔にとりまとめてください。また、この資料は、HPで公表する予定ですので、特定の個人を指す事例や特許取得等に支障がある内容は表現を改める等、個人情報の保護や知的財産権の取得等に支障がないよう、配慮してください。
- ② 評価結果欄は全ての項目について、得点を付けた人数を記載し、平均点を少数第1位で記載してください。

番 号	6-事前-2						
課題名	県産飼料をフル活用！おかやま和牛飼養管理技術の確立						
課題の概要	<p>国際情勢を背景とした資材価格の高騰が続いており、輸入飼料価格の高止まりが畜産経営全体に大きな影響を及ぼしている。このような状況において、生産費の約43%を飼料費が占めている和牛繁殖経営では、飼料費の削減が喫緊の課題となっている。</p> <p>一方で、畜産農家では、耕畜連携への機運が今まで以上に高まっており、現在、稲わらや稲WCS等の利用が推進されているところである。</p> <p>本事業において、稲わらや稲WCS等の県産飼料を活用した低コストな和牛飼養管理技術を確立させつつ、当該給与方法を用いて、「岡山和牛推奨子牛（おかやま四ツ☆子牛）認定基準」に適合する発育良好な子牛づくりを進め、その研究成果を農協や県民局等と連携して普及していくことは、和牛繁殖経営での飼料費低減及び県産飼料の利用推進に寄与することになる。</p>						
評価結果	区 分	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点	平均点
	必要性	2 人	3 人	1 人	0 人	0 人	4. 2
	有効性	0 人	5 人	1 人	0 人	0 人	3. 8
	効率性・妥当性	1 人	5 人	0 人	0 人	0 人	4. 2
	総合評価	2 人	4 人	0 人	0 人	0 人	4. 3
助言・指摘事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・稲わらのほとんどが、すき込みや野焼きをされていて、飼料として有効利用が図られていないことを考えれば、飼料価格高騰の折の試験としては、適当であり、早急に成果を出していただきたい。 ・「おかやま四ツ☆子牛」と通常子牛の取引価格の比較やわら類給与による「おかやま四ツ☆子牛」生産への影響について、成果報告で示していただきたい。 ・粗飼料給与の観点から、乳牛への給与に関する試験にもつなげられないか。 ・長物わらの減少や県内の稲 WCS の供給不足という課題への対応も併せて検討いただきたい。 ・岡山県では稲 WCS の生産・利用の手引きを作成し、農家普及に努めているため、子牛給与まですそ野を広げることは有用と考える。 ・県産飼料について、輸入飼料の代替品として選択できるようになることは、有意性があると考えます。 ・田に放置された切わら等の収集の問題については、コスト面を明確にした上で、コントラクターや耕種農家と連携し、適正な取引価格を設定することができれば、利用が促進されると考えるので、今後方策等考慮いただきたい。 ・和牛繁殖経営におけるコスト抑制に価値があると考えますが、目標とする生産原価（供給価格）についても示していただきたい。 ・県産飼料の活用は、供給価格の安定にもつながり、消費者にとってもメリットがあると考えます。 						

注意事項

- ① 各評価委員の評価内容を基に、重複する評価内容を取りまとめて記載する等、簡潔にとりまとめてください。また、この資料は、HPで公表する予定ですので、特定の個人を指す実例や特許取得等に支障がある内容は表現を改める等、個人情報の保護や知的財産権の取得等に支障がないよう、配慮してください。
- ② 評価結果欄は全ての項目について、得点を付けた人数を記載し、平均点を少数第1位で記載してください。